

道南いさりび鉄道 —地元密着と地域貢献を目指す取り組み

敷村朝生 道南いさりび鉄道株式会社 運輸部 運輸課長

1. はじめに

2016年3月26日、北海道新幹線・新青森—新函館北斗間の開業に伴い、JR北海道江差線（五稜郭—木古内間、37.8km）は、並行在来線としてJR北海道から第三セクターの「道南いさりび鉄道」に経営移管され、新しい鉄道会社として営業を開始しました。当社は、「安全第一の鉄道運行と地域密着の経営」を理念として掲げ、様々な取り組みを行っています。

今回はその中から、地元密着と地域貢献を目指す取り組みについてご紹介します。

2. 地産地消デザイン

会社のロゴ、車両や制服などのデザインは「地産地消デザイン」をコンセプトに、地元のデザイナーや大学と当社との協業で実施しました。会社の掲げる理念を起点として、地域の魅力や新たな価値創造について何度も議論を重ね、デザイン制作を行いました。当社の路線は、津軽海峡と函館湾、そして遠くに函館山を望む車窓の景色が特徴的で、ロゴマークは函館湾の巴形の地形を、車両は函館山のシルエットを描いたデザインとなっています。



道南いさりび鉄道
South Hokkaido Railway

図1 会社ロゴマーク



写真1 車両デザイン

（前2両は当社仕様塗装、3両目はJR北海道標準塗装）

3. 観光列車「ながまれ海峡号」の運行

生活路線としての役割のほか、新幹線と連動した新たな観光需要の掘り起こしのため、旅行会社との共同企画による観光列車「ながまれ海峡号」を運行し、大変ご好評をいただいています。「ながまれ」とは、地元の古い方言で「のんびりして」という意味があります。車両は昭和50年代に製造されたキハ40形ですが、外装はオリジナル塗装（写真1の1両目）、内装には沿線特産の道南杉を使用したテーブルを取り付け、昭和の風情、懐かしさがある印象です。

列車は夕方に函館を出発し、木古内往復をゆっくりと約4時間をかけて、沿線の美しい景色や（季節によって）幻想的な漁火を眺めながら、地域の銘店や地元特産のお料理・BBQなどを楽しむことができる趣向となっています。



写真2 ながまれ海峡号車内の様子

4. 地域貢献を目指す取り組み

地元とのつながりを大切にした取り組みも行っています。通学定期券の学校出張販売の実施や、沿線市町で開催されるイベントにも積極的に参加し、パネルの出展やグッズ販売などを行っています。また当社独自の取り組みとして、駅の待合室内に最寄り高校の活動を紹介する掲示板の設置や、鉄道の日に合わせて「道南いさりび鉄道フェスティバル」を開催し、当社の応援ソング「函館慕情」を歌う演歌歌手の徳永ゆうきさんの歌謡ショーや、当社の魅力を探るシンポジウム、ながまれ海峡号の試乗会などのメニューを計画しています。

当社は初年度から赤字が想定される厳しい経営環境の中で、これからも永く地域に愛され必要とされる鉄道会社であり続けるために、全社員一丸となって業務に取り組んで参ります。函館にお越しの際は、ぜひ木古内までの素敵なお小旅行を「道南いさりび鉄道」でお楽しみください。